

つながる

社会的養護の社会化フォーラムを通して、松阪地域にも子どもに関わる活動をしている団体はたくさんあることがわかりました。各団体がつながり合えるように、このコーナーで紹介させていただきます！

Vol.13 NPO法人大杉谷自然学校

松阪駅から車で約1時間半。清流と山々の美しさに心癒されながら、校長の大西かおりさんのお話をうかがいました。

大杉谷自然学校は、「大杉谷小学校廃校後も、それに代わる賑やかな場所を…」という要望を受け、2001年に設立された官設民営型のNPO法人です。

地域の方が代々受け継いできた考え方、自然と共にある暮らしや技術・伝統を次世代に繋ぐため、積極的に調査・記録し、体験プログラムに取り入れたり、発信したりという活動をしています。その一つ、伝統漁法「しゃくり」を紹介してくださいました。川遊びは危険だからと禁止するのではなく、幼いころから川で繰り返し遊び、何が危険なのかを実際に体験することが大切です。自然の中で遊ぶことにより、子どもが本来持っている危機管理能力や技術習得能力などの本能が発揮されます。

また、「自然」という「如何ともしがたい存在」を知ること、そして、自分の思い通りにならない状況を一度受け入れ、共感するというのが、人との関係・信頼を築く第一歩につながるとおっしゃっていました。小さいころから自然という0か100かでは割り切れない存在に向き合い、自然の中で友達や色々な人と向き合う機会を持つ子どもは、自然にも人にも優しいとお話ししてくださいました。

自然の中になると、心も身体も解き放たれていくような気持ちになります。そんな中で遊び、学ぶ体験が、子どもたちの成長につながるのももちろんのこと、大人にとっても、子どもと向き合う姿勢や人との関わり方・自分の在り方にもつながってくるのだと思いました。

大杉谷自然学校



お知らせ

ファンド活動にご協力ありがとうございます。

東海ろうきん「NPO寄付システム」は、毎月100円からご希望の金額で口座振替によりご寄付いただく仕組みです。当センターも支援団体として登録しており、昨年度は38,900円のご支援をいただきました。ありがとうございました。

様々な形でみなさまのご支援に支えられています。引き続きご支援をお願いします。ご支援についてのお問い合わせは当センター事務所までお願いします。

特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター

〒515-0084 松阪市日野町788 カリヨンプラザ1F (開所日・時間 月～金 10:00～17:00)
TEL 0598-20-8344 FAX 0598-20-8345 ホームページ <http://www.mknpj.jp/> eメール info@mknpj.jp

●この会に賛同し、会を支えてくださる個人・団体の方を募集しています●

正会員：年1口5,000円 支援会員：年1口3,000円 賛助団体会員：年1口10,000円
※入会金：300円

会員数 正会員：20名 支援会員：87名 賛助団体会員：23団体 (12月末日現在)

【賛助団体会員】(敬称略)	・医療法人 河合産婦人科	・東海印刷株式会社	・松阪市健康体操連絡協議会
・株式会社アクアメディカル	・健康体操 ひまわり会	・東海シール株式会社	・一般社団法人 未来の大人応援プロジェクト
・医療法人 イワサ小児科	・株式会社 阪本事務機	・Smile Loop Photo	
・うれしの 太田クリニック	・医療法人 桜木記念病院	・ナガフジ産業有限会社	
・株式会社 SK スズキ	・ささおこどもクリニック	・はせがわこどもクリニック	
・医療法人 大久保クリニック	・医療法人 地主矯正歯科クリニック	・万協製薬株式会社	
・おたクリニック	・鎮守の森を夢見る会・その二	・株式会社 富士土地	他一団体

K O D O M O 21

子どもたちがのびやかで豊かな「子ども時代」を過ごすために

Winter NO.214

2022年 1月 1日

発行元：特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター

大人気絵本「おれたち、ともだち！」シリーズがお芝居になってやってきます！

劇団うりんこ「ともだちや あいつもともだち」公演

松阪子どもNPOセンターでは、子どもたちに本物の文化芸術に触れてほしいと、今年度は松阪市との共催で演劇鑑賞に取り組みます。今回の演劇は、「おれたち、ともだち！」シリーズ12巻の中から『ともだちや』『あいつもともだち』『ともだちごっこ』の3作のお話です。「本当の友だち」ってどんなものでしょう？登場する動物たちはどう思っているのでしょうか？

チャイルドラインには、「どうしたら友だちができますか？」「友だちはいるけど本当の気持ちは話せない。」「友だちに話を合わせるのが疲れる。」といった電話が入ります。子どもたちの一番の関心事の一つである「友だち」をテーマにしたお話ですので、子どもも大人もたくさんの方に鑑賞していただけたら嬉しいです。

日時：2022年3月12日(土) 開演14時(開場13時30分)
会場：農業屋コミュニティ文化センター
チケット：全席指定 一般 2,000円 子ども(小学生以下) 1,000円
※3歳未満はひざ上無料、席が必要な場合は3歳未満でも有料
※チケットは松阪子どもNPOセンターへお問い合わせください。



シニアサポーター養成講座を開催しました

日時：10月14日(木)・18日(月)・25日(月)
会場：松阪市福祉会館

今年度からシニアサポート事業を始めるにあたり、松阪市高齢者支援課主催「令和3年度 松阪市生活支援サービス担い手養成研修(地域編 初級・中級)」をサポーター養成講座に位置付け、18名の方が受講されました。

「自分の親は介護できなかったので誰かのお役に立ちたい」、「高齢者について学びたかった」、「民生委員をしているので、必要な方に支援をつなぎたい」等、サポーターになるきっかけは様々ですが、高齢者が「ちょっと困っていること」を、地域の中で「ちょっと助けて!」と言える社会をめざして、高齢者の声に添ってサポートをしていきたいと思えます。

●ご利用内容：部屋のそうじ、ゴミ出し、庭の草取り、通院の付き添い など



子どもの権利条約を学ぼう

～条約からみる子どもの権利～

子どもの権利条約

第28条「教育を受ける権利」

子どもには教育を受ける権利があります。国はすべての子どもが小学校に行けるようにしなければなりません。さらに上の学校に進みたいときには、みんなにそのチャンスが与えられなければなりません。学校のきまりは、人はだれでも人間として大切にされるという考え方からはずれるものであってはなりません。



＜教育を受ける権利＞

「義務教育なんだから、子どもは学校に行く義務がある」と思っている人もいるかもしれませんが、大人側に子どもに教育を受けさせる義務があるのであって、子どもには教育を受ける権利があります。子どもはどのような状況においても、教育を受けることができなければなりません。

2021年10月13日に文部科学省が発表した令和2年度問題行動・不登校調査で、小中学校の不登校児童生徒数が19万6127人と過去最多となりました。様々な理由で学校に行かない(行けない)子どもたちがいます。また、家計を支えるために進学を諦める、親が描く進路のために勉強を強要されるなど、自分が望む教育を受けられない子どもたちがいます。

子どもたちは、知らない間に学ぶ権利を侵害されています。学校以外の多様な学びの選択ができることや、子どもの力だけではどうすることもできない家庭環境への社会的な支援が必要です。子どもが自分には学ぶ権利があり諦めなくてよいことを知り、希望する進路にチャレンジできるような社会にしていかなければなりません。

＜教育の目的＞

私は数学が苦手な中学生になって成績が悪いので、数学が得意な父が毎朝勉強を教えてくれることになりました。私は父も数学も朝も大嫌いでした。恐怖だった記憶しかありません。決定的に数学が苦手になりました。わかる父には、わからない私が理解出来なかったのかもしれない。私は自分でも何処がわからないのかわからない状態なのに、父は教える気満々でした。大人と子どものように対等な関係でない場合は、嫌なことでも「いや」と言えず、虐待になるのではないのでしょうか。

私にとって「学ぶ」とは、「評価される」、「出来なかったらどうしよう」、「解らないといえない」、「知っている人が偉い人」と色々な解釈が浮かび上がってきます。第29条では「教育は、子どもが自分の持っている良いところをどんどんのばしていくためのものです。」とありますが、私は能力がない事を証明するために学んだように思います。教育の目的は、好きなことを探求し、自分で工夫して考えて、どんどん学んでいく「主体的に学ぶ」ということだと思います。学ぶことが楽しいと思える教育がこれからさらに必要となるでしょう。



子どもの意思に反して勉強や習い事、スポーツなどをさせることは、教育虐待といって、児童虐待の一種です。



主体的な学びの場

主体的な学びの場としては、東京都世田谷区の私立和光小学校、鳥取県の新田サドベリースクール(私設学校)や家庭を拠点にいろいろな社会の資源を生かして学んでいくホームエデュケーション等があります。

2020年に文部科学省は「自分で考え、表現し、判断する」力を育てる「主体的・対話的・深い学習」の視点にたって学習指導要領を改訂しました。和光小学校では、学習指導要領改訂以前から「自分で考え、表現し、判断する」力を育てる運営がされています。教科書を使わず授業も学校生活もすべて手作りで、子どもたちの伸びゆく力を信じ自主性を大切に、何でも話し合っています。

- ・子ども自身の「なぜ」「どうしてなんだろう」「賢くなりたい」という内なる意欲を掘り起こせるように教科教育のカリキュラムが組まれています。私たちは「発達の原動力は子ども自身にあるから」と考えているからです。
- ・「子どもが疑問を持つとしたらどんなことか」を基本に「何を知りたがっているのか」「それによってどんなことができるのか」という視点で授業を組み立てていくと、必然的に教材は「手作り」のものになっていくのです。
- ・子どもたちが学びにどれだけ「ドキドキ」「ワクワク」できるかで、もっと知りたい意欲が湧き上がってくると考えているのです。

(和光小学校ホームページより)

6年生の総合学習のテーマは「沖縄」。自然や文化・歴史から基地問題まで広く学び、秋には学習旅行で現地を訪ねます。現代日本の抱える、さまざまな深い問題の一端に、毎日触れ、夜な夜な話し合う4日間。「自分はどのようにしていくのか」が問われる濃密な体験をしっかりと心に刻みます。

子どもたちがやりたいことや興味のあることを探求し、自分で学ぶことができる主体的な学びの場が、どこに住んでいても選べる環境が必要だと思います。



活動からみえること

児童養護施設入所児童への学習支援事業

当センターが三重県子どもNPOサポートセンターと協働で行っている、児童養護施設入所児童への学習支援事業では、児童養護施設で過ごす小学生を対象に、同じサポーターが毎週1回同じ曜日の同じ時間に訪問し、宿題等をしながら子どもと関わり支援をしています。同じサポーターが1対1で関わることにより、子どもとサポーターが信頼関係を築いていきます。関係ができるまで時間がかかることもありますが、子どもは気持ちを受けとめられることで自分は自分のままでよいと思え、意欲が湧いてきます。

自分が好きな歴史上の人物を毎週サポーターに教えていた子どももいました。学習支援が興味のあることを探求できる時間になればと思っています。サポーターにとっても、子どもと関わることで自分の価値観や傾向を知る機会となり、学びの場になっています。

